

私の経過した学生時代

夏目漱石

青空文庫

私の学生時代を回顧して見ると、殆んど勉強と云う勉強はせず
に過した方である。従つてこれに關して読者諸君を益するような
斬ざん新しんな勉強法もなければ、面白い材料も持たぬが、自身の教訓
の爲め、つまり這こん麼な不勉強者は、斯こういう結果になるといいましめ
思ひ出したまま述べて見よう。

私は東京で生れ、東京で育てられた、謂いわば純粹の江戸ツ子で
ある。明はつきり瞭記憶して居らぬが、何でも十一二の頃小学校の門

(八級制度の頃)を卒おえて、それから今の東京府立第一中学――

其の頃一ツ橋に在^あつた——に入つたのであるが、何時^{いつ}も遊ぶ方が主になつて、勉強と云う勉強はしなかつた。尤^もも此学校に通つていたのは僅^{わず}か二三年に止り、感ずるところがあつて自^みら退^{かず}いて了^{しま}つたが、それには曰^{いわ}くがある。

此の中学というのは、今の完備した中学などとは全然異つて、その制度も正則と、変則との二つに分れていたのである。

正則というのは日本語許^ばり^かで、普通学^{すべ}の総^{すべ}てを教授されたものであるが、その代り英語は更にやらなかつた。変則の方はこれと異つて、ただ英語のみを教えるというに止つていた。それで、私は何^どれに居たかと云えば、此の正則の方であつたから、英語は些^{すこ}しも習わなかつたのである。英語を修^おめ^さていぬから、当時の予備

門に入ることが六力敷い。これではつまらぬ、今まで自分の抱いていた、志望が達せられぬことになるから、是非廃そうという考を起したのであるが、却々親が承知して呉れぬ。そこで、抛なく毎日々々弁当を吊して家は出るが、学校には往かずに、その儘途中で道草を食って遊んで居た。その中に、親にも私が学校を退きたいという考が解つたのだらう、間もなく正則の方は退くことになつたというわけである。

二

既に中学が前いう如く、正則、変則の二科に分れて居り、正則

の方を修めた者には更に語学の力がないから、予備門の試験に応じられない。此等の者は、それが為め、大抵は或る私塾などへ入って入学試験の準備をしていたものである。

その頃、私の知っている塾舎には、共立学舎、成立学舎などというのがあつた。これ等の塾舎は随分汚きたないものであつたが、授くるところの数学、歴史、地理などいうものは、皆原書を用いていた位であるから、なかなか素養のない者には、非常に骨が折れたものである。私は正則の方を廃よしてから、暫しばらく、約一年許ばかりも麴こうじまち

町 の二松学舎に通つて、漢学許じつとり専門に習つていたが、英語の必要——英語を修めなければ静止じつとしていられぬという必要が、日一日と迫つて来た。そこで前記の成立学舎に入ることにした。

この成立学舎と云うのは、駿河台するがだいの今の曾我祐準さんの隣に在あったもので、校舎と云うのは、それは随分不潔な、殺風景きわ極ままるものであつた。窓には戸がないから、冬の日などは寒い風がヒユヒユウと吹き曝さらし、教場へは下駄を履はいたまま上がるという風で、教師などは大抵大学生が学資を得るために、内職として勤めていたのが多かつた。

でも、当時此の塾舎の学生として居た者で、目今有要な地位を得ている者が少くない。一ちよつと寸例あを挙げて言つて見ると、前の長崎高等商業学校長をしていた隈本くまもと有尚、故人の日高真実、実業家の植村俊平、それから新渡戸にいとべ博士諸氏などで、此の外ほかにも未だあるだろう。隈本氏は其の頃、教師と生徒との中間位のところに

居たように思う。又新渡戸博士は、既に札幌農学校を済^{すま}して、大
学選科に通いながら、その間に来ていたように覚えて居る。何で
も私と新渡戸氏とは隣合つた席に居たもので、その頃から私は同
氏を知っていたが、先方では気が付かなかつたものと見え、つい
此の頃のことである。同氏に会つた折、

「僕は今日初めて君に会つたのだ」と初対面の挨拶^{あいさつ}を交わされ
たから、私は笑つて、

「いや、私は貴君^{あなた}をば昔成立塾に居た頃からよく知っています」
と云うと、

「ああ其那^{そんな}ことであつたかね」と先方^{むこう}でも笑い出されたようなこ
とである。

英語に就ては、その前私の兄がやっていたので、それについて少し許り習ったこともあるが、どうも六力敷くて解らないから、暫らく廃して了った。その後少しも英語というものは学ばずにいた者が、兎に角成立学舎へ入ると、前いう通り大抵の者は原書のみを使っているという風だから、教わるといふもの、もともと素養のない頭にはなかなか容易に解らない。従つて非常に骨を折つたものであるが、規則立つての勉強も、特殊な記憶法も執つたわけではない。

又、英語は斯^こういう風にやったらよかろうという自覚もなし、唯^{ただ}早く、一日も早くどんな書物を見ても、それに何が書いてあるかということを知りたくて堪^{たま}らなかつた。それで謂^いわば矢鱈^{やたら}に読んで見た方であるが、それとて矢張り一定の時期が来なければ、幾ら何と思つても解らぬものは解る道理がない。又、今のよう比較的書物が完備していたわけでないから、多く読むと云つても、自然と書物が限^{ほか}られている。先^まず自分で苦勞して、読み得るだけの力を養う外^{ほか}ないと思つて、何でも矢鱈^{やたら}に読んだようであるが、その読んだものも重^{おも}にどういふものか、今判然と覚えていない。そうこうしている中に予科三年位から漸^{だんだん}々々解るようになって来たのである。

私は又数学に就ても非常に苦しめられたもので、数学の時間にはボールドの前に引き出されて、その儘まま一時間位立往生したようなことがよくあつた。

これは、大学予備門の入学試験に応じた時のことであるが、確か数学だけは隣の人に見せて貰つたのか、それともこつそり見たのか、まあそんなことをして試験は漸やつと済すましたが、可笑おかしいのは此の時のことで、私は無事に入学を許されたにも関かわらず、その見せて呉くれた方の男は、可哀想にも不首尾に終つて了しまつた。

四

成立学舎では、凡そ一年程も通つたが、その翌年大学予備門の入学試験を受けて見ると、前いうたようにうまく及第した。丁^{ちよう}度^どそれが十七歳頃であつたと思う。

一寸^{ちよつと}ここで、此の頃の予備門に就^つて話して置くが、始め予備門の方の年数が四力年、大学の方が四力年、都合大学を出るまでには八年間を要することになつていたが、私の入学する前後はその規定は變じて、大学三年、予備門五年と云うことになつた。結^つまり局^{まり}総体の年数から云えば前と聊^{いささ}か變りはないが、予備門丈^だけでいうと、一年年数が殖^ふえたことになり、その予備門五年をも亦^{また}二つに分ち、予科三年、本科二年という順序でした。

それで、予科三年修了者と、その頃の中学卒業生とを比べて見

ると、実際は予科の方が同じ普通学でも遙はるかに進んでいたように思われた。即ち予科すなわの方では動物、植物、その他のものでも大抵原書でやっていた位であるが、その時の予科修了者は、中学卒業生と同程度ということに見做みなされることになった。だから中学卒業生は、英語専修科というに一年入ると、直ぐ予備門本科に入学することが出来たのである。規則改正の結果、つまり斯こういうことになったので、予科を経てゆく者より、中学を卒業して入った者の方が二年だけ利益とくをすることになる。

私などは中学を途中で廃よして、二松学舎、成立学舎などに通い、それから予科に入ったのであるから、非常に迂まわり路みちをしたことになる。其そんなこと那事ではむしろ其そのまま儘中学を卒おえて予備門へ入った

方が、年数の上から云つても利益であつたが、私ばかりではない、私と同じような径路をもつて進んだ人が沢山たくさんあつた。その人達は先まず損した方の組である。

で、私は此の予備門に居る頃も殆ほとんど勉強はしなかつた。此の当時は家から通わずに、神田猿楽町さるがくちようの或る下宿屋に、今の南満鉄道の副總裁をして居る、中村是公なかむらげこうという男と一いっしょ所に下宿していたものであるが、朝は学校の始業時間が定きまつて居るので、仕方なく一定の時間には起床したが、夜睡眠の時間などは千差万別で、殆ほとんど一定しなかつた。

矢張り、此の頃も学科に就つて格別得意というものはなかつた。中にも数学、英語と来ては最も苦しめられた方であるが、と云つ

て勉強もせずに毎日々々自由な方針で遊び暮していた。従つて学校の成績は次第に悪くなるばかりで、予科入学当時は、今の芳賀^{はが}矢一氏などと同じ位のところで、可成^{かなり}一^{いっしょ}所にいた者であるが、私の方は不勉強の爲め、下へ下へと下つてゆく許^{ばか}り。その外、當時の同級生には今の美術学校長正木直彦、専門学務局長の福原鏝二郎、外国語学校の水野繁太郎氏などがあつて、それ等の人はなかなか出来る方であつたが、私達遊び仲間の連中は総^{すべ}て不成績で、漸^{だんだん}次^{これら}、是等の諸氏と席の方が遠ざかるばかりであつた。

五

不勉強位であつたから、どちらかと云えば運動は比較的好きの方であつたが、その運動も身体が虚弱であつたため、規則正しい運動を努めてやつたというのではない。唯遊んだという方に過ぎないが、端艇競漕などは先ず好んで行つた方であろう。前の中村是公氏などは、中々運動は上手の方で、何時もボートではチャンピオンになつていた位であるが、私は好きでやつたと云つても、チャンピオンなどには如何してもなれなかつた。

その他運動と云つても、当時は未だベースボールもなく、庭球もなかつたから、普通体操位のものです、兵式体操はやらなかつた。要するに運動というより氣儘勝手に遊び暮したという方で、よく春の休みなどになると、机を悉皆取片附けて了つて、足押、腕

押などという詰らぬ運動——遊びをしては騒いでいたものである。試験になつてもそう心配はしない。「我豈あに試験の点数などに関せんや」と云つたような考で、全く勉強と云う勉強はせずに居たから、頭脳は発達せず、成績はますます悪くなるばかり。一体私は頭の悪い方で——今でも然そうだが——それに不勉強の方であつたから、学校での信用も次第と無くなり、遂ついに予科二年の時落第という運命に立ち至つた。

落第して見ると誰も同じこと、さすがに可いい気持はせぬ。それからは前と違つて、真面目まじめに勉強もするようになったが、矢張り人普通のことをやつたままで、特別に厳しい勉強を続けたというのではない。

教場へ出ていても前と異つて、ただ非常に注意して教師のいわれるのを聞くようにしたと云う位のものであつた。真面目まじめに勉強し、学校に出ても真面目に教師のいうことを注意して聞くようにすれば、然そう矢鱈やたらに苦しまなくとも、普通ならやってゆかれることと思ふ。だから、私は仮令よし真面目な勉強をするようになった後でも、試験の前々から決して苦しむようなことはせず、試験のその前夜になつて、始めて験しらべて置くというような方法とを採つていた位である。

丁度^{ちようど}予科の三年、十九歳頃のことであつたが、私の家は素^{もと}より豊かな方ではなかつたので、一つには家から学資を仰がずに遣^やつて見ようという考えから、月五円の月給で中村是公氏と共に私塾の教師をしながら予科の方へ通つていたことがある。

これが私の教師となつた始めで、其私塾は江東義塾と云つて本所に在^あつた。或る有志の人達が協同して設けたものであるが、校舎はやはり今考えて見ても随分不潔な方の部類であつた。

一カ月五円と云うと誠に少額ではあるが、その頃はそれで不足なくやつて行けた。塾の寄宿舎に入つていたから、舎費^{すなわ}即ち食糧費としては月二円で済^すみ、予備門の授業料といえは月僅^{わずか}に二十五錢^{もつと}（尤も一学期分宛前納^{ずつ}することにはなつていたが）それに書物

は大抵学校で貸し与えたから、格別その方には金も要らなかつた。先^まず此の中から湯銭の少しも引き去れば、後の残分は大抵小遣^{こづか}いになつたので、五円の金を貰うと、直ぐその残分丈^だけを中村是公氏の分と合せて置いて、一^{いっしょ}所に出歩いては、多く食う方へ費^{しま}して了つたものである。

時間も、江東義塾の方は午後二時間丈^だけであつたから、予備門から帰つて来て教えることになつていた。だから、夜などは無論落ち附いて、自由に自分の勉強をすることも出来たので、何の苦痛も感ぜず、約一年許^{ばか}りもこうしてやっていたが、此の土地は非常に湿気が多い為^つめ、遂^つい急性のトラホームを患^{わずら}つた。それが為^つめ、今も私の眼は丈夫ではない。親はそのトラホームを非常に心

配して、「兎とに角かく、そんな所なら無理に勤めている必要もなからう」というので、塾の方は退ひき、予備門へは家から通うことにしたが、間もなくその江東義塾は解散しまってしまったのである。

それから、後の学資はいうまでもなく、再び家から仰いでいたが、大学へ進むようになってからは、特に文部省から貸費を受けることとなり、一方では又東京専門学校の講師を勤めつつ、それ程、苦しみもなく大学を卒おえたような次第で、要するに何の益するところもなく、私は学生時代を回顧して、むしろ読者諸君のために戒いましめとならんことを望むものである。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版 夏目漱石全集 10」筑摩書房

1972（昭和47）年1月10日第1刷発行

初出：「中学世界」

1909（明治42）年1月1日

※底本は、「談話」の項におさめた本作品の表題に、かぎ括弧を付けて示している。

※「教師となった始めて」は、底本では活字の欠けにより「教師となった始めて」と見える。

入力：Nana ohbe

校正：米田進

2002年5月10日作成

2003年5月25日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

私の経過した学生時代

夏目漱石

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>